



⑮ 振り返り

あそびを学習や体験活動に 自然を楽しみ環境を守る

「里山里海を楽しむ」では14回にわたって、公衛協の実践活動で活用されることを念頭に『自然を楽しみ環境を守る』という考え方で、自然遊びのメニューや環境を守るポイント、環境と関わりが深い民俗などをレシピア風に紹介してまいりました。

特に公衛協が「あそび」を「学習」や「体験活動」に変身させ、身近な環境を守り楽しむ「態度」や「学び」、「気づき」を次の世代に伝えていくためのきっかけづくりにつながるよう、数あるメニュー・ポイントから選定しました。

より多くの方に、公衛協活動を知ってもらい、理解と協力を得るには、仲間づくりが重要です。そのために里山や海岸での清掃活動、アドプト空間での定期清掃の際、清掃を終えて解散とせず、このシリーズで紹介したメニューを取り入れて、親子や子ども、若者が参加しやすくなる企画づくりに挑戦していただきたいと思います。

皆さんが体験してきた「あそび」には、楽しさはもちろん、生きものや資源を大切に教えるやアイデア、沸きあがる疑問を解き明かそうとする探究心、仲間と協力して遊ぶ協調性、効果を高めようとする工夫など、人間の成長に大きな影響を与える要素がたくさんあります。

昨今、異常気象を背景に、環境を守ろうという運動が盛り上がりつつあります。皆さんは、「守りたい環境」のイメージを問われたとき、どんな環境を思い浮かべますか。わたしは、最初に、生まれ育った地域の環境を思い起こしてほしいと思います。

「Think Good」

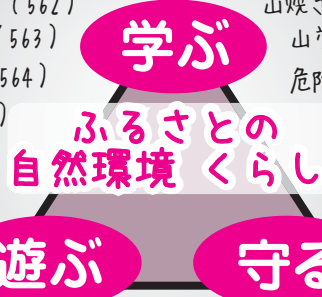
皆さんが体験してきた「あそび」には、楽しさはもちろん、生きものや資源を大切に教えるやアイデア、沸きあがる疑問を解き明かそうとする探究心、仲間と協力して遊ぶ協調性、効果を高めようとする工夫など、人間の成長に大きな影響を与える要素がたくさんあります。

皆さんが守ってきた地域の環境を引き続き維持していくためには、次の担い手に、その楽しさを伝えていかなければなりません。この連載がその一助になれば幸いです。

シリーズ終わり
地域活動支援センター
馬場田 真二

里山里海を楽しむ 連載テーマ一覧 ※()は連載号数

リースづくり (561)	竹の使い方 (561)
燻製 (562)	山焼き (562)
山菜 (563)	山歩き (563)
昆虫採集 (564)	危険な生き物 (564)
手作り釣竿 (565)	ハイキングのマナー (565)
まき割り (566)	秋の味覚 (566)
バウムクーヘン (567)	バードコール (567)
焼きマッシュマロ (568)	焚き火 (568)
朝干狩り (569)	塩づくり (569)
干潟のカニ (570)	アラムシロガイ (571)
ビーチコーミング (572)	海プログラム安全対策 (573)



⑬坂町公衛協
【ウォーキング】

1月18日、安芸郡坂町において「第72回ようち坂町ウォーキング」が開催された。このイベントは、健康づくりを兼ねた町おこしを目的に企画され、産学官が月1回の持ち回りで行われている。

今回の参加者は、親子連れや一般参加など約30人で、潮風に吹かれながらウォーキングを楽しんだ。コースは2種類あり、通常の5キロコースと、物足りない人用にさらに平成ヶ浜の埋立地を歩く6キロコースが設けられた。

坂町民センターをスタート地点とし、全区間ほぼ平坦なコースであり、参加者はゴールまでの道のりを風景や人々とのふれあいを楽しみながら歩いた。途中、健康運動指導士によるウォーキングの大切さや、健康づくりの大切さについて話を聞いた。

坂町では、市街地を中心に横浜公園、ベイサイドビーチ坂などの公園が調和した、心も体も健康になる「自然に恵まれた健康で文化的な住みよいまち」の実現を目指している。

また、坂町公衛協では、平成25年度の活動のポイントとして「ウォーキング」を入り口とした環境と健康づくりを挙げ、活動を繰り広げている。

今後もウォーキング事業を継続して行い、地域の健康づくり、さらには活動の拡大発展に期待したい。

んだ。コースは2種類あり、通常の5キロコースと、物足りない人用にさらに平成ヶ浜の埋立地を歩く6キロコースが設けられた。

士によるウォーキング講座もあり、健康にも配慮されていた。参加者からは、「短時間で適度な運動ができ、今後ぜひ参加したい」、「将来に向けての健康づくりは

ふるさと自然のみち、さらには既存の7つの遊歩道コースを有機的に結びつけるウォーキングトレイルを整備し、町内全域をネットワーク化し、町内外の人々が歩く



ウォーキングを楽しむ参加者

町内を結ぶウォーキングトレイル 健康づくりと町おこしへ

能美脱温暖化未来会議は、地元の鹿川(かのかわ)小学校と多くの連携事業を展開しており、5年生を対象とした環境総合学習プログラムは今年で9年目を迎える。



⑦能美脱温暖化未来会議

地元の環境に興味や関心を持ってもらおうと、今年5回は5回の出前講座と5回の新聞づくりが予定されている。1月20日に開催された第1回目の授業を取材した。

第1回目は、ecoおじいさんこと能美脱温暖化未来会議の池田朝雄会長が講師となり、24節季や雑節、潮の満ち引きと月の関係などを学んだ。また、現在の鹿川湾の航空写真と、おじいちゃんおばあちゃんが小学5年生頃(昭和30年頃)、お父さんお母さんが小学5年生頃(昭和60年頃)の鹿川湾の航空写真を並べ、何がどう違うかをポストイットに書き込み、発表した。

クイズ形式で進む授業に、子どもたちは旧暦のカレンダーを見ながら、「ハイ!」と元気な声で答えていた。



出前講座のスケジュールを説明するecoおじいさんこと池田朝雄氏

このプログラムは、授業を受けておしまいではなく、まとめて発表するという一連の流れがポイントとなる。最終回には、班ごとにまとめられた壁新聞が披露される予定である。

講師陣や内容も工夫され、島の子どものおいてほしいこと(ecoおじいさん)、国立公園や海の生き物の話(環境省)、海の環境を再生させる方法(水産海洋技術センター)、鹿川湾の干潟や岩場の生きものの変化(さとうみ科学館)と、魅力的な授業が続く。

企画した池田会長は、『これからも、地元の環境について視点を変えながら伝えていく。興味を持ったら、調べすることに繋げてほしい。そして、大きくなって、地元の環境を守る活動に発展することを期待したい』と思いを語った。

今後の授業の進展と、児童たちの成長に期待したい。

(脱温暖化センターひろしま)